

平成 29 年度（通算第 15 回）

国際交流推進協議会

平成 29 年 9 月 13 日（水）  
アルカディア市ケ谷（私学会館 3 F 「富士の間」

V. 事例報告

(1) 『ベトナム人留学生の現状』

講 師

駐日ベトナム大使館 一等書記官  
ファム・クアン・フン 氏

## 【フン氏】

皆さま、こんにちは。私はベトナム大使館からまいりました、教育担当のフンと申します。どうぞよろしくお願ひします。

今日のお話は、『ベトナム人留學生の現状』についてということです。ベトナム人留學生といっても、学歴や出身が違ひますので、今日は簡単に、まず、ベトナム人留學生の分類について、5つのグループに分けたいと思ひます。

まず1番目は、大学教員である留學生、2番目はベトナム政府機関の職員である留學生、3番目はベトナムの大学を卒業した大学卒業生の留學生、4番目は高校を卒業した留學生、最後は、ベトナムの大学に在学している学生である留學生という、主に5つの種類に分けられます。

それでは、まず1番目に、ベトナムの大学教員である留學生についてお話ししたいと思ひます。

ベトナム政府が2013年から実施している1つの留学の政策なのですけれども、これは、大学教員を対象としています。これは、修士ではなくて、博士号を修得するために、ベトナム政府は、毎年、数多くの若手の教員を海外に送り出しています。これは、いわゆる、ベトナム政府の奨学金と言われてはいますが、2013年に始まって、2年間の間、2015年までは、およそ1,700人の若手の教員を各国に送り出しています。この政策を実施する背景には、ベトナムの大学教育の質を改善するというのが狙いがあります。統計資料を見ていると、留学先、受け入れ先として最も多いのはフランス、それから、オーストラリア、ドイツ、イギリス、中国、そして日本など31カ国がごぞいます。

日本について申し上げますと、今はもっと増えていると思ひますが、日本は、約100人のベトナム人の大学の教員の留學生を受け入れてはいますが、その中で金沢大学、それから、広島大学、また、北陸先進科学技術大学院大学の3つの大学が、最も多くの大学の先生を受け入れてはいます。なぜ、その大学が挙げられたかと言ひますと、これらの大学は、ベトナムの教育訓練省と協定を結んで、授業料の半減が合意されています。だから、これらの大学は、よく各大学の先生を受け入れてはいます。

皆さんもご存じだと思ひますが、ベトナムの大学の教員の年齢はとても若いです。最も多い年齢は、30代ぐらいです。ちなみに、私もともと大学の教師をしてはいました。大学を卒業直後、大学の教員に採用されたというケースが、ベトナムではよくあります。だから、大学教員に採用されてから留学することがよくあります。

留学の際、留学先として、日本より欧米諸国を選択する傾向にあります。その理由は、日本では、まだ英語で勉強できる大学、また、プログラムは、そんなに多くないからという原因もあります。日本に留学する教員が最も多いベトナムの大学を申し上げますと、ベトナムでも大きな大学ですけれども、ハノイ農業大学、それから、これは地方の総合大学ですけれども、フエ大学、また、ダナン大学、それから、国家大学ホーチミン校が挙げられます。

大学の教員の場合は、ベトナム政府の奨学金だけではなくて、さまざまな国の奨学金がありますので、非常に恵まれています。だから、今はベトナムの大学の先生の大半は、外国で留学した経験があると考えられます。以前は、ベトナムの大学の先生といえは、ロシアとか、旧社会主義国で留学した人がほとんどでしたが、今は、アメリカ、それから、ヨ

ヨーロッパ、日本と、さまざまな国に留学しています。

2番目は、政府機関の職員である留学生についてです。これは、直接、日本政府のJICAをとおして実施されているのですが、そのJDS奨学金というのは、日本政府がアジア諸国10カ国に奨学金を交付することによって、人材育成に力を入れるというものです。ベトナムの場合は、2000年から毎年30名ぐらい、この人材開発の奨学金で日本の修士課程に通っています。総人数は、500人以上が、このJDSの奨学金で日本に留学していました。とくに、来年度、2018年度から定員は倍に増えて、毎年60名のベトナムの政府機関の職員が日本で修士課程に通うことになります。

受け入れる大学は、今年までは限られているのですが、来年度から、枠が拡大して、数多くの日本の大学がこのJDSのプログラムに参加することになります。現在、国立大学のほかに、明治大学、国際大学、国際基督教大学、立教大学など、私立大学も、このJDSのプログラムに参加しています。

このJDS奨学生は、ベトナムの中央省庁だけではなく、地方政府、それから、各研究所、また、大学もさまざまな機関から来ていて、全部、ベトナムの公務員たちです。

それからJDSプログラムの1つの特徴としては、研究分野は、ほぼ発展途上国が直面している課題、つまり、たとえば、市場経済とか公共政策、それから、法律整備、農業開発を中心にまなぶことです。この奨学金は、今年までは修士、つまり、だいたい2年間、日本に留学生しているわけですが、来年度から博士課程も開設されるということです。彼らは、帰国のあと、学んだことは仕事上で発揮され、また、日本とベトナムの関係に貢献できる人材育成が期待されています。実際、もうこのJDSの奨学生であった人は、現在、ベトナムの幹部になった人も、まだ少数なのですが、続々でています。さっきの大学教員、それから、政府の職員は、両方ともほとんど英語で勉強しますから、日本語ができる人は非常に少ないということも、1つの特徴です。

続きまして、3番目のグループですが、これは、ベトナムの大学の卒業生である留学生です。われわれのベトナム大使館では、最近、ベトナム人留学生向けの企業生説明会を開催したことで分かったことは、ベトナムの大学を卒業したあと、日本に留学しているという人は、結構いるということが分かりました。つまり、大学を卒業したあと、普通は就職するのですが、彼は、就職せずに、留学を決めた、そういう人もいれば、また、一度就職したのですが、途中で辞めて、留学を決めたという人も、最近多くなっています。もちろんこのような人は、大学の教員とか、政府機関の職員と比べて、奨学金をもらうことは難しいと思われれます。つまり、ほとんどは、自分のお金で留学するというわけです。

ベトナムの大学を卒業したあと、留学生ですから、日本で何を学ぶかといいますと、まず、日本語学校で日本語を勉強している人が多いです。日本語を勉強する目的は、ベトナムでは大学を卒業しても、なかなか就職するのは難しい、就職できないという現実の問題があります。

また、就職しても給料は非常に安い仕事ばかりという問題があります。その背景には、大学の過剰な新設があります。今、ベトナムの大学の数は、短期大学も含めて、400以上の大学が設立されています。とくに、この10年、大学の数が急に増えています。また、存在している大学の定員も増加、拡大されているという傾向にもあります。そういう理由

で、大学を卒業してもなかなか就職できないというのが現実です。

この就職難は、収入がいい仕事を海外に求めるといった動きを活性化します。この海外というのは、たとえば、東南アジアの場合は、シンガポールとかマレーシアとかですが、その中で、日本語を勉強すれば、そういう機会が開かれると思う人が多いと私は考えています。しかし、こういう大学卒業生である留学生にとっては難しいこともあります。つまり、学部生では各大学で就職支援とかキャリア支援という部署を置いていると思いますが、大学卒業生の皆さんは、今、日本語学校に通っているわけで、なかなか就職の情報、また、就職活動に参加できる環境ではありません。そういう役割は、日本語学校に、あまり期待できないと思います。だから、なかなか日本での就職は簡単にいかないというのが現状です。

ベトナム大使館が開催している企業説明会について申し上げますと、ベトナムの大学を卒業して、日本語学校で勉強している子は、日本語はまだ足りないという感じがしています。だから、日本で就職するためには、まず日本語の力、日本語の能力を高める必要があると思います。

4番目は、ベトナムの高校卒業生である留学生。これは、ベトナム人留学生全体の大部分を占めているグループです。高校卒業生というのですけれども、細かく分けると、まず名門の高校生は、かなり早くから留学を決意する高校生が多いと思います。名門の高校というのは、たとえば、英語は重点的に教育されている、また、非常にエリートな高校です。そういう高校からでている高校生は、早くから留学を考えるということです。その中に、非常に英語が得意な高校生がいます。この、英語が得意な高校生は、留学を考えるときに、欧米の大学を選ぶことが一般的です。ベトナムのメディアでも、よく報道されていますが、たとえば、アメリカのハーバード大学とか、アメリカの名門大学に合格したという事例はよく新聞記事に載っています。しかし、最近、日本でも学部生のときから授業が英語でおこなわれる大学がでてきており、ベトナムの高校生に、新たな選択が開かれています。

たとえば、皆さまもよくご存じだと思いますが、大分県にある立命館APU大学、それから、早稲田大学にも英語のプログラムがあります。それから、秋田県にある国際教養大学、それから、上智大学では英語のプログラムが実施されています。だから、ベトナムの英語が得意な高校生は、こういう大学を探しているのです。APU大学は、一番、ベトナム人の留学生が多いです。今、さらに増えているのですけれども、去年、400人以上のベトナム人の留学生がAPUで勉強しています。たぶん、これは、ほかに例はないと思います。

この高校卒業生のグループの中に、英語ではなくて、日本語が得意な高校生もいます。ベトナムは、2003年から、日本語教育は中学校、それから、高校で第2外国語として導入され始めました。もう、今まで十数年たちますけれども、その結果は、高校を卒業したときに、日本語能力はN2とかN1も持っている人が、多くはないのですけれども、できています。

また、高校で日本語の授業を受けていない高校生は、たとえば、各日本語センター、つまり、塾で日本語を勉強することができて、高校を卒業したときに、N3を取っている人も、最近多くなっています。だから、今、ベトナムの高校の卒業生は、英語だけじゃなく

て、日本語が非常に上手な人が結構います。だから、ある大学は、そういう高校生を対象に、日本語スピーチコンテストを主催するという例もあるのです。

この日本語N3からN1を持っている高校卒業生は、日本に留学する際、まず日本語学校に入って、日本語を勉強しています。その目的は、明らかです。日本留学試験に合格できるように、日本語の力を高めるといことです。日本留学試験を受けたあと、各日本の大学に入学するわけです。これは、最も多いパターンです。それ以外にも、最近、ベトナムで毎年開催されている各種の留学フェアは、この留学フェアをとおして、日本の大学の情報を把握できて、日本語学校に入らなくても、直接に日本の大学に入学するという方法もあります。

また、同じグループなのですけれども、これは、高校卒業生ですが、もともと留学のことを考えない高校卒業生もいます。彼らは、斡旋業者を介して日本に来て日本語学校で勉強する。これは、いわゆる日本留学のブームの一因になっています。統計資料なのですけれども、去年までは、ベトナム人の留学生は、5万3,000人以上に上っていますが、その半分以上は、日本語学校で勉強している留学生です。

また、日本語学校で勉強している留学生について申し上げますと、さっき申し上げたように、大学卒業生もいれば、高校卒業生もおります。高校卒業生のほうが多いのではないかと思います。彼らは、日本に来る前に、日本語をまだ勉強していないから、少し、6カ月ぐらい勉強している子が多いです。だから、日本に来る前に、N5しか持っていない人がほとんどです。

また、1つの特徴は、農村部の出身で経済的に恵まれていないので、授業料や生活費を賄うためには、必死にアルバイトをしているというケースが多いです。ベトナムでN5、つまり、6カ月しか日本語を勉強していない子は、日本で1年間半、また、2年勉強していても、N2を取れる人は、まだ少ないのではないかと思います。N2を取るのが難しいということもあって、大学に進学する希望はあるのですけれども、なかなかその条件を満たすことはできなくて、結果的に、専門学校に進学するという傾向は強いです。

それから、最後のグループなのですが、これは、ベトナムの大学に在学している学生である留学生です。これは、説明しますと、ベトナムの大学で一定の期間、プログラムによって違いますけれども、1年半か2年半勉強したあと、日本の大学の2年、または、3年に編入するという制度が誕生しています。なぜ半年があるかといいますと、ベトナムの学年は9月から始まるわけですから、日本とちょっとずれがあります。

この制度について、例を申し上げますと、たとえば、ベトナムの、これは名門大学ですけど、ハノイ工科大学と長岡技術大学との間で、共同で実施しているプログラムもあります。また、経済大学の場合は、ハノイ貿易大学と青森県にある青森中央学院大学でこういうプログラムを今展開しています。このようなプログラムは、これは、もともとベトナム大学にはないので、科目とかプログラムもつくらないといけません。その多くは、日本語の授業です。だから、一定の日本語のレベルに達成していなければ、なかなか日本の大学に入学できないという理由で、まず、日本語教育を重視されています。この共同プログラムのメリットは、言うまでもなく、日本語学校に入学する必要はなく、全体の期間が短縮されることによって、経済的な負担も軽減されるというものです。だから、このような連携は、これからも拡大されていくのではないかと思います。

最後となりますが、ベトナムは教育熱心な国だと、よく言われています。日本をはじめ、海外に留学に行く学生数は、毎年増加している。ということは、ベトナムのこれからの発展、また、国際社会への統合の深化につながると思います。

とりわけ、在日ベトナム人留学生は、どんな教育レベルにしても、将来、日本とベトナムとの懸け橋を果たすことが大いに期待されています。

私の希望ですが、ベトナム人の留学生は、東京とか、大阪、名古屋などの大都市の大学に集中する傾向がありますが、大都市の大学だけではなくて、日本の地方の大学にも入学してほしいというものです。ぜひ、本日お集まりいただいた皆さんの大学に、ぜひご協力いただければと思います。今後とも、ぜひよろしくお願いします。

私の話はこれでおしまいです。ご静聴ありがとうございました。

(以上)